

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0174200204), 法人名 (別海厚生企業組合 すずらん), 事業所名 (グループホームすずらん), 所在地 (北海道野付郡別海町別海鶴舞町6番地45), 自己評価作成日 (令和4年2月21日), 評価結果市町村受理日 (令和4年5月11日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2004年から開設し、この間たくさんの方達の入れ替わりがありました。今現在では、介護度の低い方たちが多くなり、自分の意思表示や、行動が自由にできる方が多くおられます。外出も自由に行きたいとは思いますが、コロナ禍の現在は、それもかなわない状態です。外出以外では、意思を尊重し、生き生きと生活できるように支援させてもらっています。家族からも同じように言っていたいただいています。利用者同士の関係が、良好で、ほほえましい場面が多くみられており、職員は、その場面を、遠目で見守っていることが多々あります。そんな時が一番うれしく思います。今まで、理念を変えず、同じ支援を継続出来ている結果だとも思います。ボランティアの訪問もほとんどなく、合唱や、楽器の演奏のみ、中庭で行っていただいたりしています。地域との交流がほとんどでない状況ですが、以前からのつながりは、継続出来ています。利用者一人ひとりを尊重し支えていけるグループホームになっていると思っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0174200204-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年3月15日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、町の中心部より程近い新旧の戸建て住宅地の奥まった一画にあり、すぐ先には原野と牧場が連なる、自然豊かな環境下に立地している。建物は落ち着いた木造2階建て、1階を当事業所の2ユニットで占め、2階は同法人の訪問介護事業所と会議室等となっている。開設は2004年、組合員方式の企業組合が母体で、別海町と中標津町でグループホームや訪問介護、デイサービス等の介護事業を担っている。当事業所の特色のひとつは、職員が企業体への出資者であるため、職員全員が組合員として法人運営にも関与していくという意識が高く、毎年の総会でも理念等について共有を行っている。また事業所には広い畑も隣接しており、主にボランティアの方が管理してくれているが、利用者のほとんどが酪農や牧畜に携わってきた経緯もあるため、土のある生活がやすらぎのひとつとなっている。今後も利用者の自立心、自尊心を大切にしたい変わらぬ支援に期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を土台に、この間変わらずケアに勤めています。事業理念は、全職員で簡潔な内容にまとめ、皆が理解し実践につなげられるようにしています。	法人理念をわかりやすく簡潔にまとめた独自理念を玄関やリビングに掲示し、日常的に共有している。主に全体会議の場で理念への理解を深めており、日々その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として、十分に地域の一員と位置づけられているとおもいますが、今現在、利用者が、積極的に交流する機会は、設けていません。	通例では、積極的に地域行事に参加したり、ホームの避難訓練などに協力をお願いする等、相互の協力関係作りに注力している。また、ボランティア等の来訪を受け入れ、地域とのふれあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、地域の方達の交流がほとんど行えてない為、消極的な活動となっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議は、コロナウイルスの関係から、全てが、書面会議となっており、委員の皆様意見を取り入れる機会が殆どありませんでした。	現在は書面開催となっているが、通例では管理者を中心に家族、地域代表、行政で構成され、定例で開催している。運営状況や利用者の動向、現状の問題点まで論議され、参会者から意見を聞き取り、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に困ったことがあった時等、町が相談相手となってきている。密な関係性である。	主に役場窓口から運営推進会議や電話で助言、アドバイスを得ている。その他、地域高齢者についても情報交換を行い、良好な協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の種類等、勉強会を行いながら、理解があいまいにならないよう取り組んでいる。委員会の報告も、勉強会で取り上げている。	身体拘束虐待防止委員会を設置し、2ヶ月ごとに開催、内容について全職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、具体的な事例を経過から終息まで職員間で協議し、繰り返す事のないよう周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング内の勉強会、委員会の報告、又日常のケア実践のなかでも、理解できるよう全員で意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングでの勉強会や、契約時での家族への説明等で理解し必要性を学び、一人ひとりの権利を守るために活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナの感染の時期から、内容を簡素化する場合もありますが、十分に理解できるよう又重要な所は理解できるように行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が、理事となっていることから、利用者、家族の意見は、直接理事会の報告とできるもので、反映することができる。	定例でホームだよりを送付し、写真を交えて生活状況、体調面等を伝えている。また、コロナ禍の工夫として、多様な面会方法の設定や、電話・手紙で意見の聴取に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が、理事となっていることから、職員の意見は、理事会の報告となる。又年に1度は、理事長との直接面談もあるため、可能なことは、全て反映されている。	会議等の場で運営に関わる課題を協議し、組織的に充実した業務運営に努めている。統括、管理者が職員意見を聞き取り、グループ事業所間でも共有し、運営に活かす仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度の理事長との面談により、働き方、やりがいの再確認等を行い、職場環境や、整備についても解消できるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者自らが、研修会を開催するなど、積極的に研修の機会等を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、積極的におこなっていたが、今現在は、行っていないが、連絡は必要な時に取り合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期であっても、なるべく安心できる情報を集め、不安なく過ごせるりことを、第一優先におこなうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安も同時にしっかりと傾聴し、安心して頂けるような、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族への必要な支援は、訴え等を受け入れ、必要な支援を検討する努力をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、同じ立場の存在として、接しており共に暮らす人として日常を送っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人家族又職員も家族の一部として、本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、物、場所を大切に支援していけるよう職員全員意識している。	コロナ禍により現在は面会が困難となっているが、電話の取り次ぎや写真を添えたホーム便りを発行し、近況を伝える事で、それまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在は、利用者同士自ら、楽しい時間を自ら作りだすことが多く、職員は、見守りを中心しながら、支えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時折、電話があったり、差し入れを届けてくれたりなど、継続して関係が来ている事が多くあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いは、本人本位で検討しています。最近では、自分の言葉で、伝えてくださる方が、増えてきています。	利用者、家族の意向や希望の聞き取りに注力し、職員間で申し送りや会議の場で協議しながら、可能な限り応えられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族又知り合いや、以前のサービス利用機関などから、情報を集め、少しでも本人を把握できるための努力をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンに合わせ、その方にとって最良の方法を模索しながら、支援に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりよく暮らせるよう、職員中心にこまめな話し合いをおこなっています。	利用者本位を基本に、家族、医療機関、職員の意見を反映し、計画作成担当者が原案を作り、職員間でモニタリング結果と合わせて検討して、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の発した言葉、希望等を中心にしながら、それを生かせるように、皆で協力して共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに応えるためには、貴族のサービス以外にも、柔軟に取り組むことは、していきたいが、今現在は、消極的となっている。状況が変われば、再度おこなってきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限りおこなってきたが、今は積極的に行っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人に一番適した医療を受けられるよう、家族と話し合いを行いながら、かかりつけ医を選んでいる。町外を選ばれる家族には、家族の協力を得ている。	かかりつけ医は、利用者と家族の意向で決定している。協力医療機関からの助言を得て、体調面・支援方法について職員間で共有している。受診は原則として家族同行であるが、状況に依り、職員が柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員からの情報が、こまめに上がってくるため、それを皆で共有し、看護師にも伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の様子や認知症の症状の悪化のいみから、病院側との相談は、その都度密に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	時々、本人に対して、終末期についての希望等を聞いています。身体状況が、思わしくないときには、家族との相談も欠かさずおこなっています。	契約時に事業所の指針を説明し、同意を得ている。状況に合わせて意向の再確認を行いながら、協力医療機関、家族と共に終末期を支える為の話し合いを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に法人としても合同で、訓練をおこなっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防に相談しながら、そのような方法をとるべきかと、話し合いを行っています。今現在は避難訓練も事業所内だけでおこなっています。	年2回、マニュアルを基に同法人の他サービス事業所と併せ、火災、自然災害を含めた避難訓練を行っている。定期的に緊急持出し用の避難グッズや備蓄品を確認して、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを良く、理解し、尊厳、プライバシーを守れるような、支援に努めています。対応が間違っていることがあれば、声を掛け合える環境にしている。	職員は接遇や言葉使い、望ましいケアについてミーティングの場で検討している。不適切と思われる対応は、個別面談時に指導し、改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も一方的にならないよう、一人ひとりの思いを聞き、全員で共有し希望に添えるよう又自己決定に繋げられるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時には職員側の都合になりかけることがあったとしても、そこに疑問を持つ職員が、必ず数名おり、回避できています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性、女性問わずその方なりの、身だしなみ(今までと同じように)を整えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最近では、作業できる方が増えてきているため、より一緒に取り組む場面が増えています。毎日食べたい物の希望を聞いては、叶えられるような努力をしています。又喜んでいただけそうな物をいつも皆で考えています。	季節感、盛り付けに配慮し、彩りあるものとなっている。調理の過程や下膳、テーブル拭き等、好きなお手伝いをお願いしたり、外食気分を味わう等、食事が楽しみある時間となるよう、職員間で検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べている量や、水分も含め、全員で共有しながら、不足な時は、別な物や別な時間に摂れるよう等、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後3回それぞれの状態や、人によっては、歯科医の指示に従ったケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを共有し(排泄表)時間や、様子を見ながらトイレの誘導を行っている。時に日中は全員のトイレでの排泄を行っています。	排泄はトイレで行うことを基本とし、チェック表を用いながら、誘導も時間と仕草を読み取って行っている。乳製品や軽い運動も取り入れて、自然な排泄になるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	様々な食材を利用したり、つぼ押し、やマッサージなど工夫しながら便秘の予防を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は、決まっておらず、入りたい時に入れるように、本人の希望にそえるようにしている。時には、人員の関係で、要望に答えられないこともある。	週2回以上の入浴対応に努めている。毎日お湯はりをし、時間帯なども制限せず、個々の心身の状況や気分に応じて、楽しんで入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の希望に応じて、湯たんぽや、暖かい飲み物や寝たい場所など安心して眠れるようなお手伝いをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や、下剤の調整など、薬剤師や、医師のアドバイスをいただきながら観察し、調整することもある。(下剤が中心)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を中心として、情報を得て、その方の出来ることを探しながら、毎日日課として行っていることが多いです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気軽に外出できる方達が、増えてきて、自ら要望もたくさんでていますが、今現在は、行きたくてもいけない状況にあります。コロナが落ち着いたら行きたい場所へいけるようにしていきたい。	コロナ禍で外出が制限される中、感染防止に留意しながら、短時間でも個別に声がけし、外気浴や近隣への外出が出来るよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在は、本人で買い物する機会がないため、預かっているお金があることを伝え、欲しい物は、いつでも職員が購入してくるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している方は、自由に連絡を取っています。電話をかけたい希望があるときは、会話が出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に、温度管理、光の調整などは、気を配っており、ソファの配置等もその時々、最適な空間を作れるよう工夫している。又季節感が、味わえるような行事ごとの掲示等も角にならない程度に行っています。	各ユニットの共有スペースは、採光や温湿度に配慮された開放的な空間となっている。居間では利用者が好きな場所で寛いだり、季節が感じられる装飾があり、家庭的でゆっくりと過ごせる工夫が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が行きたい所で、話したい方と自由に会話する場面が多く見られる。テーブルを囲んで大勢で過ごすことも多い。又自由に居室を訪ねて会話している場面も多々みられています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	病気の症状によっては、シンプルになってしまう事もありますが、可能な方達は、家族と自分なりの自分らしい居室にして過ごしておられます。	安心して自宅さながらの生活が続けられるよう、居室には家族の協力を得て、昔馴染みの家具や思い出ある物、写真、手紙が掲示されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの、身体能力に合わせて、用具を使用したり、手すり、動線など、工夫しています。		